小学校中学年における、絵画の鑑賞指導

―― ピーテル・ブリューゲルの『農民の結婚式』――

岡田匡史・藤井順子[*]・小笠原一彰[**]・木村彰[***]・山近尚子[****]

A Study on How to Teach Students in the Third and Forth Grade
Appreciating Painting at Elementary School

Masashi OKADA, Junko FUJII, Kazuaki OGASAWARA, Akira KIMURA and Naoko Yamachika

キーワード： 表現、鑑賞、絵画の鑑賞指導、作品の知的理解、写実表現、児童画の発達的特質、ピーテル・ブリューゲル『農民の結婚式』、小学校中学年、小学校高学年、『小学校学習指導要領／図画工作（平成元年３月）』、『小学校指導書図画工作編』

Ⅰ　新『小学校学習指導要領』における、小学校高学年の鑑賞指導の位置づけ

『小学校学習指導要領』の改定に伴なって発行された、『小学校指導書図画工作編』「第１章　総説」「1 図画工作科の改定の趣旨」には、鑑賞指導について、次のような指摘がある。

「適切な鑑賞の指導を重視し、児童が造形作品などを進んで鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ味わう喜びを味わわせ、主体的にものを見るなど創造的な鑑賞の基礎的な能力を育てるとともに、自分や友人の作品、美術作品などを大切にする豊かな心情や態度を育てるようにする。[1)]」

鑑賞指導、鑑賞教育の重要性については、近年、教師、美術教育研究者、美術評論家、作家等、美術に関係する、幅広い立場の人達によって指摘されてきており、その指摘は、平成元年度に改定された、『小学校学習指導要領／図画工作』の中に、具体的な形で反映されることとなった。特に高学年の鑑賞指導の在り方に関しては、これまでになかった、独自な見解が盛り込まれ、注目を集めている。それは、これまで１セットであった、「表現」と「鑑賞」の２領域を切り離し、「鑑賞」領域を独立して扱ってもよい、とする見解である。『小学校学習指導要領』「第７節　図画工作」「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い」には、鑑賞指導に関して、次のように銘記されている。

「第５学年及び第６学年においては、指導の効果を高めるため必要がある場合には、鑑賞の指導を独立して行うようにすること。[2)]」

＊　　防府市立松崎小学校
＊＊　防府市立中関小学校
＊＊＊　山口大学教育学部小学校教員養成課程
＊＊＊＊山口大学教育学部小学校教員養成課程

II　鑑賞指導に関する、本調査研究の目的

鑑賞指導の内容・在り方に関しては、様々な意見がある。小学校学習指導要領図画工作作成協力者の、藤澤英昭は、「まず大切なのは、彼らの感性が揺り動かされ、その体験を通して、より豊かな造形感覚を形成していったかどうかに意を注がなければならない」とし、鑑賞教育＝西洋美術史の授業という、短絡的な図式を批判している[3)]。鑑賞指導の主たる目的は、確かに、造形感覚、美的感性、感覚的に優れた目、審美眼等を初め、豊かな心と情操を養うことにある。だが、同時に、美術作品をより深く幅広く理解するための、知識・見方についても、教師による適切な指導が必要であり、この指導も、鑑賞指導の重要な部分を占めるものと考えられる。

従来、美術領域の鑑賞は、作品を見て感動し、その表現内容がもつ美質・造形面の醍醐味を経験するといった、感覚的・直観的な内容のものが多かった。そして、なによりも、直接的な美術体験である、表現制作に、重点が置かれ過ぎてきたのが実情である。そこで、現在、美術領域の鑑賞においては、美術作品に関する、知的な側面の教育をどう扱うかが、特に『小学校学習指導要領』の改定に伴なって、重要な課題となってきており、本調査研究は、そうした認識に基づき、実施されたものである。

本調査研究における、私達の興味は、要約して言えば、児童が、作品鑑賞の上で、作品に関する知識・見方を学習し身につけることによって、作品理解がどのように変質するのか、そして、その教育的効果は適切なものであるのかどうか、等々の点について知ることである。

なお、本調査研究においては、前記した、高学年の鑑賞指導が十全に展開されるために、その前の学年、すなわち、移行期の中学年に焦点を絞ることにし、この年齢段階における、特に絵画の鑑賞指導の内容・在り方について、調査（実際には、鑑賞教材を用いた授業）で得た、資料の分析・検討を基に、考察を展開する。

また、『小学校学習指導要領』の内容に即するとすれば、第3学年では、美術作品の鑑賞はまだ早いということになるが、比較検討する資料を入手する必要もあり、第3学年をも調査対象とした。Ⅴで述べるが、調査を実施してみると、その結果は、『小学校学習指導要領』における、発達段階に関する解釈の妥当性を示すこととなった。『小学校学習指導要領』には、第3学年、第4学年における、鑑賞領域の取扱いについて、次のように書かれている。

第3学年＝「友人の作品を、表したかったことや表し方などに関心をもって見ること[4)]。」

第4学年＝「友人の作品や親しみのある美術作品をよさや美しさ、表し方などに関心をもって見ること[5)]。」

III　ピーテル・ブリューゲル『農民の結婚式』の、鑑賞指導を軸とした、調査研究の概要

初めに、本調査研究を実施するに当たって、防府市立松崎小学校（佐藤淳美校長）と、防府市立中関小学校（岡本利行校長）、2校の御協力が得られたことに、この紙面を借りて、心から感謝申し上げた

図1 ピーテル・ブリューゲル『農民の結婚式』板に油彩、113.0×160.0cm 1568年

い。

調査対象学年は、第3学年と第4学年とした。現在、藤井（防府市立松崎小学校）は、第3学年の学級担任であり、小笠原（防府市立中関小学校）は、第4学年の学級担任であることから、各学級の児童を対象として、調査研究を進めることにした。

◎調査者（＝授業者）：藤井順子、小笠原一彰

◎調査に使用した、鑑賞教材：ピーテル・ブリューゲル『農民の結婚式』（図1参照。日本文教出版発行の、平成元年度用教科書『図画工作／第4学年用（p.26.）』に、作品の図版が掲載されている）

◎調査対象の児童の数：第3学年＝30名、第4学年＝34名

◎調査実施日：藤井が1989年12月5日、小笠原が1989年12月6ー7日

◎調査実施場所：藤井が防府市立松崎小学校、小笠原が防府市立中関小学校

1. 調査の実施方法

調査とは言っても、内容は授業と同様である。精確なデータを得るために、調査の条件を整備し、項目がきちっと整理されたアンケート調査を実施する、という方法は採らなかった。調査は、通常の授業の形で行なうことにし、かつ、鑑賞指導に関する、必要な資料が得られるよう工夫した。

2. 調査の内容

作品の提示は、作品のスライドを映写するという方法によった。

作品鑑賞後に、児童に感想文を書かせ、この内容を分析・検討することによって、鑑賞指導の在り方を、客観的に評価しようとした。そこで、児童には、2種類の感想文を書いてもらった。第1の感想文は、教師の説明が一切なく、作品をただ提示し、児童が作品を見て、その印象・感想等を書いたものである。第2の感想文は、教師が、発問型式で、児童に作品の概要について理解させた後に、再び作品を提示して、児童が作品に関する印象・感想等をもう一度書いたものである。要するに、第1の感想文は、児童が、児童の様々な思い・観点から、作品を自由に鑑賞した、その内容を書いたものであり、第2の感想文は、そうではなく、教師の意図的・計画的な鑑賞指導が介在して後に、児童が新たな知識・見方に基づいて、作品を鑑賞した、その内容を書いたものである。両者を比較検討することによって、教師の鑑賞指導が、児童の作品の見方を、どう質的に変化させ、どう向上発展、あるいは逆に、硬化させ束縛したか、その結果が教育的に適切か不適切か等々が、客観的に理解できる、と予測した。

鑑賞指導上のポイントについては、次の6項目に統一することにした。各教師は、これら6つのポイントを踏まえて、オリジナルな発問を作成し、児童が興味と関心をもって、作品の概要をよく理解できるように努めた。

①美術史的背景（ブリューゲルという画家の個性や、彼が生きた、時代的・社会的背景）

②技法的側面（『農民の結婚式』が、板に油彩で描かれたこと等）

③造形的側面（色彩表現の特質、物や人物の配置の仕方、構図等）

④画面に描かれたモチーフ（壁に掛かった物、料理を運ぶ板、農民が吹く楽器等、子供達が興味を抱きそうな、様々な物）

⑤人物の仕草・動作、顔の表情（描かれた農民達の、種々な仕草・動作や、顔の表情）

⑥絵の主題（場面／時・場所等を含む）

左の絵は、フランドルの生活を描いたブリューゲルの陽気な絵の1つである。かなり裕福な農民が町の連中と一緒になって祝宴を張っている。舞台はこの日のためにきれいに掃除された納屋である。客たちは収穫台のまわりに置かれた粗末なベンチや腰かけにすわり、素焼きの水差しがビールのジョッキとなり、古い戸板が給仕盆になっている。花嫁は、緑の布にぶら下がった紙の冠の下でほほえんでいる娘であろう。しかし、花婿がどれで、結婚式のお客はそれぞれどういう縁者なのかという点については、数世紀にわたる論議にもかかわらず、いまだにはっきりしていない。納得のゆく分析は、批評家ギルバート・ハイエットの説である。彼は判断の根拠を、容貌の類似性、テーブルの席の位置、衣服の違いに求めた。左端のビールをついでいる男とテーブルのいちばん手前で皿をわたしている男は、花嫁と顔立ちが似ているので、花嫁の兄弟であろうと想像される。花嫁の母親は花嫁の左隣りのほとんど顔の隠れた女であろう。ハイエットの推論では、花嫁の右隣りに坐っているのが花婿の両親で、2人は上席を占め、花嫁とはまったく似てもいないし、都会ふうの上等の衣服を着ている。花婿の両親の隣りには修道僧がおり、そのまた隣りには、剣と変わった胴着をつけた男がすわっている。彼は気品があって、花嫁と同じ階層の人間とは思えない。おそらく、宴会の客の中では最も著名な客で、市長といったところだろう。他の人物を見渡して、花婿らしくない人物を消してゆき、結局ハイエットが花婿だとにらんだのは、テーブルから身をそらして、もっと酒をくれと水差しをあげている鼻の長い品のない男である。彼も都会ふうの服装をしているし、両親とそっくりである。臆測が当っているかどうかは別としても、この絵は、細部が丹念に描きこまれているので、長い間見ていてもあきのこない作品である。

図2 『農民の結婚式』の解説

⑥絵の主題の内容に関しては、ティモシー・フート著『ブリューゲル　c.1525－1569』にある、『農民の結婚式』の解説を参照することにした[6]（図2参照）。この解説中では、学者達の間での、花嫁・花婿が誰かという、長年の論議が重点的に扱われている。特に、花婿が誰かについて、美術批評家ギルバート・ハイエットの、興味を引く学説が紹介されており、藤井と小笠原は、この学説に注目して、画中での花嫁・花婿捜しを意図した、クイズ型式の発問（花嫁さんは、どこにいるでしょう？／花婿さんは、どこにいるでしょう？）を考えた。

ただし、藤井は、この学説の解釈上の問題に関しては、いまだに確かな解決を見ていない、という点を強調し、小笠原は、その点をあえて強調しなかった。両者の、学説の扱い方における相違は、案の定、児童の感想文に如実に反映されることになった。藤井の児童は、花婿が画中の誰だかまだ解っていない点に、強い興味と疑問を示したのに対し、小笠原の児童は、学説の花婿に、関心と好奇が集中し、その人物を当てた児童のことにまで言及する児童も、数名見られた程であった。この結果は、鑑賞指導の内容面に関して、大いに考えさせられるものであった。

3. 調査結果の分析・検討の方法

岡田と木村と山近は、児童が、画面のどの箇所に、また、描かれた物や人物のどんな側面・特徴に着目し、さらに、作品の外観・内容に関して、どのような思い・感想・評価等をもったかを整理する必要から、初めに、感想文に書かれた個々の事柄すべてを列挙してみた。次に、それらを、先に示した鑑賞指導上の6つのポイントで括り、さらに、⑦作品に関する、思い・感想・評価という項目を新しく加えて、全事項を整理した。その内容については、表1、表2、表3、表4にまとめてあるので、参照

願いたい。表の見方であるが、アルファベット（大文字／小文字）は児童を表わし、表を横に見れば、各項目の総数が解り、また、表を縦に見れば、1人の児童が、どれだけの項目に反応したかが解るように

になっている。

表1 第3学年の第1の感想文

	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZabcd	計
①美術史的背景（項目数=0）		
②技法的側面（項目数=0）		
③造形的側面		
写実表現の巧みさに関すること(上手になりたいという、願望も含む)	***　**　**　**　*　*　*****　***	19
人物の描写の巧みさに関すること	*　***　*	5
色彩表現の巧みさに関すること（色が綺麗/本物のような色等）	**　***　*	6
細部の表現の巧みさに関すること	*　*　**　*	5
陰影表現に関すること	*	1
壁の色の表現	*　*	2
洋服の色・皺(しわ)等の表現	*　*　*	3
④画面に描かれたモチーフ		
御馳走（スープ等）	**　**　*　****	9
飾り物	*	1
藁(わら)	*	1
ドア	*	1
テーブル	*	1
帽子	*　*	2
服装に関すること	*	2
⑤人物の仕草・動作、顔の表情		
料理を運ぶ人達に関すること	**　*　*　*　*　*	7
食事を作る人達（コック等）	*　**　*	4
ミルクを配る女性達（男性達の間違い？）	*	1
フライパンにホットケーキを乗せた女性	*	1
ビールを壺に入れる人物に関すること	***　*　*	5
楽器を演奏する人物に関すること	*　*	2
歌ったり、踊ったりしている人達	*	1
画面下、床に坐って、食事をする幼女に関すること	*　*	2
多勢の人達	*　*　*	3
後方の人物群	*　*	2
車人達	*	1
お金儲けをしている人達	*	1
顔の表情が、元気がなく悲しそうだ	*	1
働いている人達の表情が、疲れている	*	1
⑥絵の主題		
食事の風景	*　**　*　*　*　*	8
昼御飯	*	1
食堂・レストラン	*　*　*　*	4
パーティー	*　*　**	4
結婚式	*	1
祝賀会	*	1
宴会	*	1
市場	*	1
壺や皿を売っている店	*	1
古い家	*	1
昔	*　*	2
外国（外国人）	*　*　***　*	6
⑦作品に関する、思い・感想・評価等		
かわいそうだ	*	1
とても寂しい暮らし	*	1
忙しそうだ	*	1
絵の場面に行ってみたい	*	1

表2 第3学年の第2の感想文

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	a	b	c	d	計
①美術史的背景																															
制作年(400年以上も前に、作品が描かれたこと)	*		*	*							*			***				***												11
作者に関すること（作者が外国人/作者はいい人等）	*				*					*					*															4
②技法的側面																															
油絵具			*																												1
③造形的側面																															
写実表現の巧みさに関すること(上手になりたいという、願望も含む)	*								*																	*	*			4
顔の表情の観察表現											*																			1
顔の色の表現											*																			1
塀の色の表現																				*										1
④画面に描かれたモチーフ																															
御馳走（スープ等）									*			*		*		*														4
楽器（音楽）									*											*										2
蘭											*									*										2
帽子																			*							*				2
服装に関すること																			*	*										2
⑤人物の仕草・動作、顔の表情																															
料理を運ぶ人達に関すること											*																			1
ビールを壺に入れる人物に関すること													**							*										3
ビールを飲む人物に関すること																			*		*					**				4
画面下、床に坐って、食事をする人に関すること								*																						1
多勢の人達																			*			*								2
⑥絵の主題																															
結婚式に関すること	**		*		*		**		*																				*	8
花嫁・花婿に関すること	*******						*****				****				*			****					**						*	24
パーティー									*				*				*													3
小屋の中																	*													1
季節に関すること																						*								1
⑦作品に関する、思い・感想・評価等																															
いい		*						*																						2
面白い		*				*																								2
楽しそうだ				*							**																			3
絵の時代に行きたい						*																								1
こんな絵を描きたい			*																											1

表3 第4学年の第1の感想文

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	a	b	c	d	e	f	g	h	計
①美術史的背景（項目数=0）																																			
②技法的側面（項目数=0）																																			
③造形的側面（項目数=0）																																			
④画面に描かれたモチーフ																																			
御馳走（スープ等）	*																																		1
パン																														*					1
ナイフ									*																										1
変な物（戸板）																						*													1
狩の獲物																																*			1
⑤人物の仕草・動作、顔の表情																																			
料理を運ぶ人達に関すること													*									*													2
多勢の人達							*	*													*														3
人の動きの様子を表現																									*										1
⑥絵の主題																																			
食事の風景	*	*	*					*		*	**			**					*	*														****	15
食事の用意			*																										*						2
朝食																																*			1
食堂					*																														1
パーティー		*						*												**					*										5
結婚式	*	*							*	*														*										*	6
祝賀会	*						*																												2
宴会																													*						1
店																						*													1
家															*						*														2
変な場所																																*			1
場面の内容が理解できない																		**																	2
⑦作品に関する、思い・感想・評価等																																			
楽しそうだ																																		**	2
貧しそうだ																														*					1
汚ならしい												*																							1
食事が美味しそうだ										*	*											*													3

表4 第4学年の第2の感想文

	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZabcdefgh	計
①美術史的背景		
制作年(400年以上も前に、作品が描かれたこと)	*	1
②技法的側面（項目数=0）		
③造形的側面		
写実表現の巧みさに関すること(上手になりたいという、願望も含む)	*	1
細部の表現の巧みさに関すること	*	1
花嫁・花婿の位置に関すること	* * *** **	7
④画面に描かれたモチーフ		
チーズ	*	1
皿	*	1
小壜(びん)	*	1
スプーンのような物	*	1
犬	* *	2
羊（犬の間違い）	*	1
剣	* *	2
藁	* *	2
ぼろぼろの壁	*	1
給仕用の戸板	*	1
（花婿が坐っている）丸椅子	* *** * *	6
色んな物	*	1
帽子	** ** *	5
花嫁の被り物	*	1
⑤人物の仕草・動作、顔の表情		
料理を運ぶ人達に関すること	* * *	3
ビールを壺に入れる人物に関すること	* ** * *	5
ビールを飲む人物に関すること	*	1
楽器を演奏する人物に関すること	*	1
楽器を演奏する人物の、隣の人物	*	1
画面下、床に坐って、食事をする女に関すること	* **	3
画面右側の、市長に関すること	* ** *	4
赤い帽子を被っている男性	*	1
花婿が、老けたおじさんのようだ	*	1
花婿が、後ろを向いて、酒を要求している	*	1
花婿の鼻の形と、父親の鼻の形が似ていること	*	1
花嫁が、無口に見える	*	1
花嫁が、にっこり笑って見える	*	1
多勢の人達	* * * * * * *	7
酔っている人達	*	1
色々なことをしている人達	*	1
恥ずかしがっている人達	*	1
怖い人達	*	1
1人しか、にこっとしていない	*	1
顔の表情が、楽しそうだ	* * *	3
顔の表情が、楽しそうではない	* *	2
⑥絵の主題		
結婚式に関すること	* ** ** * *** * **** ****	18
花嫁・花婿に関すること	* ** ********** **** *	28
裕福な農民に関すること	* *	2
農民の家	*	1
外国（日本との違い等）	* * * *	4
絵の謎・秘密	* * * * *	5
⑦作品に関する、思い・感想・評価等		
面白い	* * -	2
不思議だ	* *	2
雰囲気が明るい	* *	2
貧しそうだ	*	1
騒がしそうだ	*	1
こんな絵を描きたい	* *	2
結婚式を挙げたい	*	1
中司君（花婿を当てた児童）に関すること	** * * *	5

Ⅳ　結果の考察

1.　第３学年の第１の感想文

①美術史的背景、②技法的側面に関する内容は、年齢段階を考えれば当然のことだが、ゼロであった。

ここでは、写実表現に関する内容群を、③造形的側面として総括したが、内訳は、「写実表現の巧みさに関すること（上手になりたいという、願望も含む）」が19、「人物の描写の巧みさに関すること」が5、「色彩表現の巧みさに関すること（色が綺麗／本物のような色等）」が6、「細部の表現の巧みさに関すること」が5、「陰影表現に関すること」が１であった。

写実表現という点に関して、『農民の結婚式』は、多くの児童にとって衝撃的であったと言っても、誇張ではないだろう。第３学年児童は、全般的に、写実表現に対して、強い関心と願望を抱いており、感想文の中で、自身の描画能力の低さを語る児童も、数名いた。この結果は、児童画の発達的特質という観点から見て、特に興味深いものであった。通常、知的写実性（児童画的な表現）から、視覚的写実性（写実を意図した絵画表現）への、移行の時期は、早くて第４学年頃と考えられているが、写実絵画を鑑賞した後の、感想文の内容の吟味によって、このように、第３学年でも、視覚的写実性の傾向が顕著に観察されることが解った。

また、形態、配置、構図等に関する、形式的かつ抽象的な、造形の純粋な側面に関しては、児童はほとんど関心を示さなかった。ところで、児童は、作品のスライドを映写した影響もあって、画面を、油彩画＝作品という物理的事物ではなく、まさに現実の出来事のように捉え、現実の出来事を見るのと同じように、画中の物や人物を見ていたと考えることができる。もしかりに、児童の前に、赤い三角形の厚紙や、黄色い星型の厚紙を提示したならば、その造形的特質に、児童は普通に興味をもったであろう。しかし、児童は、絵画を、現実の出来事を見るのと同じ要領で見たために、物や人物の具体性（現実性）の方に心奪われ、造形の純粋な側面には無頓着になってしまったように思われる。

④画面に描かれたモチーフの中では、「御馳走（スープ等）」が９と、当然、最も多かった。注目されるべきは、⑤人物の仕草・動作、顔の表情に関して、実に多種多様な反応があり、人物に深く感情移入した感想文が、多く見られたことであった。中でも、画面右半分に大きく描かれた、料理を運ぶ人物の動作・姿態には、子供達の視線が集中した。

⑥絵の主題に関しては、「食事の風景」が８と、これも当然だが最も多かった。児童の主題に関する想像は、画面の内容によって大いに刺激されたようであり、その他、様々な項目が挙げられた。興味深いのは、「外国（外国人）」が６と多く、児童の外国（外国人）への盛んな興味を窺い知ることができる。また、「結婚式」を挙げた者が１名いた。

⑦作品に関する、思い・感想・評価に関しては、農民達の身形、納屋の色調等によるものと思われるが、「かわいそうだ」、「とても寂しい暮らし」という、陰性の印象を挙げる児童がいた。

2.　第３学年の第２の感想文

①美術史的背景の項目として、「制作年（400年以上も前に、作品が描かれたこと）」が11あった。児童は、この歴史的事実に対して、驚いたり不思議に思ったりしている。この結果は、教師の鑑賞指導

が、多くの児童を触発し、多くの児童の心に浸透したことを物語っている。

②技法的側面に関しては、「油絵具」について記述した者が1名いた。これも、教師の鑑賞指導の成果である。

③造形的側面に関する項目は、激減した。

④画面に描かれたモチーフでは、「藁」と「楽器（音楽）」が、新しい項目として登場した。このことは、教師の指導によって、児童が画面のモチーフを注意深く見るようになったことの証である。

⑤人物の仕草・動作、顔の表情に関しても、項目が減った。第1の感想文を特色づけていた、画中の人物への、興味の柔軟な拡がり、想像の飛翔が、ここでは影を潜めている。

指導後、児童の間で、最も興味を喚起した事柄とは、⑥絵の主題に関するものであり、「結婚式に関すること」、特に「花嫁・花婿に関すること」であった。前者の総計は8、後者の総計は24であった。

最初、児童は、馴染みのない不可思議な食事の風景を前に、感性を働かせ、様々なことを考えたはずである。或意味で、作品鑑賞の理想的な様態がそこにはあったと考えられる。ところが、指導後、児童は、作品を結婚式の場面を描いた絵として見るようになってしまい、さらには、画中に花嫁・花婿を見つけようという発問から、大多数の児童の関心が、花嫁・花婿のことに集中してしまったようである。要は、このことによって、作品の鑑賞に、幅・奥行・密度等が生じたのであればよいが、逆に、児童の自発的な鑑賞態度を萎縮させ、1つの画一的な興味関心に、児童を閉じ込めてしまったとすれば、問題がある。ここでは、どうもその問題が指摘できそうである。

ちなみに、藤井は、第1回目の作品提示時におけるような、力強いインパクトを、指導後も、児童に与えることが難しかったため、第2の感想文を書く作業が、幾分、集中力を欠いた状態で行なわれた点を認めている。この事態は、主題についての解答を得て、児童の問題発見の緊張が緩み、その弛緩が感想文を書く作業に悪い形で及んだ、と解釈できると思われる。

農民の結婚式という、絵の主題が明らかになったことで、⑦作品に関する、思い・感想・評価にも変化が生じた。「いい」、「面白い」、「楽しそうだ」といった、陽性の印象を表わす項目が、新たに挙がっている。

3. 第4学年の第1の感想文

第4学年の第1の感想文は、第3学年のものに比べ、非常に簡単な内容であったため、項目数は全体的に少なくなっている。感想文を読んでの、単なる感想であるが、第4学年児童の作品の感じ方が、第3学年児童と比べると、少々弱く消極的な印象があった。

①美術史的背景、②技法的側面、③造形的側面に関しては、1つも項目が挙がらなかった。中でも、写実表現に関する反応が皆無であったことは、意外であった。第4学年児童においても、写実表現に対する関心は高いと思われるが、その点が、感想文の中に記されなかった背景には、授業の導入等の、教師側の問題が少々あったかと思われる。しかし、第2の感想文においても、写実表現に関する内容は、「写実表現の巧みさに関すること」、「細部の表現の巧みさに関すること」、各1しかなく、第3学年程、作品の写実性に強いインパクトを覚えなかったというのが、第4学年の実態のようである。

④画面に描かれたモチーフ、⑤人物の仕草・動作、顔の表情に関する反応は、感想文を読んだ限りで

は、低調であった。

⑥絵の主題では、「食事の風景」が15、「結婚式」が6であった。また、「変な場所」と答えた者が1名、「場面の内容が理解できない」と答えた者が2名いた。全般的に、児童は、作品に知的にアプローチし、その場面が一体なにを表現したものであるかに関心をもつが、結局、内容がよく摑めず、少々途惑いを覚えていたように見えた。

⑦作品に関する、思い・感想・評価は、「楽しそうだ」が2、「貧しそうだ」と「汚ならしい」が各1と、陽性と陰性の印象が半々という具合になった。

4. 第4学年の第2の感想文

①美術史的背景に関しては、「制作年（400年以上も前に、作品が描かれたこと）」を挙げた者が、1名しかおらず、第3学年の第2の感想文の場合と比較すると、数が非常に少ない。両者の差は、1つには、この項目についての指導の重点の置き方の違いによるものであろうと解釈できる。

②技法的側面を挙げた児童はいなかった。

③造形的側面に関しては、絵の主題と関連して、「花嫁・花婿の位置に関すること」、要するに、人物の空間的な位置関係に興味を覚えた児童が、7名と多かった。この項目は、第3学年の第2の感想文の中には認められず、独自な観点だと言える。空間知覚に関する、児童の発達的内容を示す事例の1つとして、この結果に注目していいだろう。

ここで、項目数が顕著に増大したのは、④画面に描かれたモチーフ、⑤人物の仕草・動作、顔の表情である。この結果は、鑑賞指導の教育的効果を端的に物語るものである。指導後、児童は、画面の隅々にあるモチーフに着目し、その中で、新しいモチーフを発見し、また、画中の様々な人物を、実に様々な視点から仔細に観察し、その動き・行為の特質を吟味するようになった。明らかに、こうした積極的な鑑賞態度は、作品の見方に関する指導を行なった後に身についたものである。

⑥絵の主題であるが、「結婚式に関すること」が18、「花嫁・花婿に関すること」が28と、ここでも、結婚式／花嫁・花婿に関する内容に、児童が多大の関心を寄せたことが理解できる。この点に関する、鑑賞指導の在り方については、第3学年の場合と同様、慎重に検討される必要がある。

⑦作品に関する、思い・感想・評価に関しては、陽性の印象である、「雰囲気が明るい」が2、陰性の印象である、「貧しそうだ（第1の感想文とは、別の児童が挙げた）」が1であった。また、前記したように、花婿を当てた児童のことを書く児童が、5名程いた。鑑賞指導の観点からの是非はともかく、児童の間で、花嫁・花婿捜しは、一種のゲームとして展開し、授業が大変盛り上がったのは事実である。

V 総括

中学年とは言え、第3学年と第4学年の間には、感想文の内容、および、鑑賞指導の教育的効果等に関して、いくつかの明確な相違が観察できた。

第3学年の第1の感想文で、最も目立ったのは、写実表現への関心の高さであった。これは、この年齢段階における、物の見方・認知、描画技能の実態と、密接な関係がある。第4学年では、写実表現に関する反応は、予想外に不活発であった。

また、第3学年の場合には、感想文の内容は、第1の方が、感覚的で生気があって面白く、鑑賞する視点が独自で、そこには、想像の自由な活動が感じられた。ところが、第2の方になると、児童の興味関心は、勢い結婚式／花嫁・花婿のことに移り、感想文の内容が、全体的に、紋切型で画一的なものとなった。この結果から判断する限りであるが、第3学年においては、作品に関する知識・見方が、鑑賞態度を活性化するのでなく、作品の自由で柔軟な解釈を、多少なりとも阻止・妨害する要因として働くと考えられるのである。

ところで、第3学年児童は、作品の外観を、視覚的・直観的に把握する傾向が強かったが、第4学年においては、事情は異なり、児童は、作品の場面を知的に理解しようとしているようであった。第4学年の第2の感想文で、5名の児童が、「絵の謎・秘密」に言及し、2名の児童が、場面の不思議な印象について指摘している。これも、この結果から憶測する限りであるが、第4学年児童の場合には、物事を知的に理解しようとする態度が徐々に確立されてきており、そのため、作品に関する知識・見方を教えることが、想像活動を抑圧することにはならず、むしろ作品についての知的興味を増大させ、児童の作品鑑賞が、かえって自発性と積極性を増すことに繋がったと思われる。ここでは、絵の主題の理解は、さらに画面の表現内容を探求するための足場となったようである。

鑑賞指導は、学年の実態をよく把握した上で実施されなければならないということが、月並ではあるが、本調査研究の結論である。ところで、上記した学年間の相違であるが、この結果は、Ⅱで示した、児童の知的な発達段階を考慮した、鑑賞指導に関する『小学校学習指導要領』の趣旨の、妥当性を確認することとなった。この点が明らかになったことは、本調査研究の1つの成果であると考えられる。

なお、本調査研究は、新しい展開を図りながら、今後も継続していく計画である。

註

1) 文部省『小学校指導書図画工作編』（開隆堂、1989年）p.1.
2) 文部省『小学校学習指導要領（平成元年3月）』（大蔵省印刷局、1989年）p.93.
3) 藤澤英昭「友人の作品や身近な造形品のよさや美しさなどに関心をもって見ることができるようにする。」（『教育美術　特集●新小学校学習指導要領――図画工作で何を育てるか』所収、特集＝学年目標を考える／第3学年・第4学年、第50巻第5号、1989年5月号、財団法人教育美術振興会）p.26.
4) 前掲書［2］p.89.
5) 同書 p.90.
6) “The World of Bruegel c.1525－1569.” TIME inc.,1973.『ブリューゲル c.1525－1569』（著者： ティモシー・フート、編集顧問： H.W.ジャンソン、本書の顧問： レオナード・J.スラトキーズ、日本語版監修： 坂崎乙郎、ライフ西洋美術全集　巨匠の世界、タイム　ライフ　ブックス、1973年）p.135.

参考文献

＊　新井秀一郎『美術の鑑賞』（実践造形教育体系25　PRACTICAL　ART　EDUCATION SERIES、開隆堂、1982年）

＊　川村善之『美術の鑑賞教育　理論と実践』（日本文教出版、1975年）